

ZANDEN Model 120 の活用(18)
—Model 120 設定条件の試聴(18)—

1. 始めに

前報(18)に引き続き、アナログ盤を選定して Model 120 の設定条件を替えて試聴していきます。今回は、ブルックナーの作品の盤を選定しました。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の導入(2)と同様、下記のとおりとします。

LP-12→(フォノケーブル)→AACU-1000→Model120(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランス/バランス変換ケーブル)→P&G フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子) →BACU-2000→300B シングルアンプ(バランス入力端子)

なお、クロスチェックの意味で、カートリッジは、ZYX R100-EX とし、接続に関しては、Garrad401 の再構成(10)と同様、下記も使用します。

Garrad401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→Brooklyn DAC+(アンバランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→P&フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→300B シングルアンプ

音源としては、下記のブルックナーの作品の盤を選んで聴いていきます。

LONDON SOL 1003-4(キングレコード)

アントン・ブルックナー：交響曲 4 番変ホ長調

カール・ベーム指揮ウィーンフィル

PHILIPS 6699 729 (オランダ)

アントン・ブルックナー：交響曲 4 番変ホ長調

ベルナルド・ハイティンク指揮コンセルトヘボウ

BERLINER PHILHARMONIKER RECORDINGS KKC-1167/8

アントン・ブルックナー：交響曲 7 番変ホ長調

ベルナルド・ハイティンク指揮ベルリンフィル

LONDON KKC-1167/8(キングレコード)

アントン・ブルックナー：交響曲 6 番イ長調

ゲオルグ・ショルティ指揮シカゴ交響楽団

3. Model 120 設定条件の試聴結果

試聴は、RIAA の正相からスタートして、種々切り替えて聴いていき、良さそうなところで、第 4 時定数も決めていきます。

LONDON SOL 1003-4 (キングレコード) の交響曲 4 番は、RIAA の正相からスタートし、すぐに逆相にし、イコライザーカーブを切り替えていきました。EMI では、少し騒がしくなり、DECCA では音の密度が薄くなったようで、TELDEC が一番密度の濃い音です。第 4 時定数は High で十分響きも豊かです。

PHILIPS 6699 729 (オランダ)の交響曲 4 番は、RIAA の正相からスタートしましたが、このままでも十分バランスが取れていますが、響きを強くして迫力を増すために、第 4 時定数を Mid にしました。

BERLINER PHILHARMONIKER RECORDINGS KKC-1167/8 の交響曲 7 番変ホ長調は、ZANDEN Model 120 の活用(2)で試聴済ですので、その追試になり、RIAA の正相で、第 4 時定数は High で問題ありません。他の盤と違って、音調の自然さ、精緻な音の表現が、ダイレクトカッティングの効果として聴き取れます。

LONDON KKC-1167/8 (キングレコード) の交響曲 6 番は、LONDON SOL 1003-4 (キングレコード) の交響曲 4 番と同じく、TELDEC、逆相、第 4 時定数は High で響きも豊かで音の厚みも十分です。Garrad401 の ZYX R100-EX でも聴いてみましたが、位相反転すると、オーケストラの各パートの音の焦点があってきます。

4. まとめ。

今回、ブルックナーの交響曲を試聴しましたが、レーベルやカッティングに応じた条件選択で、ブルックナーらしい重厚で壮大な音楽を楽しむことができました。

以上